

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

株式会社 YCC 情報システム

山形市にある株式会社 YCC 情報システムの社員、石山翔子さんに取材しました。
石山さんは山形大学工学部を卒業後、2014 年に入社しました。
現在は公共システム部の主任として働いています。

(1) 仕事内容編

——現在、どのようなお仕事をしていますか。



私は公共システム部という部署で働いており、自社パッケージ商品の保守・サポートを担当しています。具体的には、市役所などの自治体や国保組合などに対して“自治体の業務をサポートするようなシステムの導入・保守”を行なっています。

——「システムの構築」がメインになるということでしょうか。

そうですね。自社パッケージなので開発は当社で行っており、歴代の先輩方から受け継いだものを、国の制度改正に合わせて改修作業をしています。制度改正によって自治体の運用が変化するため、その都度改修が必要となります。また、新規で導入する際にはお客様の元に伺いシステムをインストールする作業を行います。また、日頃からシステムを使用しているお客様からのお問い合わせ対応も主な業務の一つですね。

——YCC の強みは何でしょうか。



お客様からの信頼が厚いというところだと思います。

私が担当している業務は「高額療養費」という、窓口で払う一月の医療費が高額になった時に、上限額を超えた分が払い戻される制度に関することなのですが、この制度では国の制度改正が何度かあります。そして、自治体の職員さんにシステム目線から“制度改正によってどう変わるのか”、“どういうところに影響するのか”などを説明するのですが、その際に「YCC さんに聞けば安心」という風に言っていたことが印象に残っています。

——仕事でやりがいを感じたのはどのようなときですか。

やりがいを感じるのは、お客様と直接やりとりをする機会が多くあるので、その際に「このシステムを入れてだいぶ業務が楽になった」と言っていただけの時です。また、難しい運用を考えている時に、それに合わせたシステムを提示した際にも、「今まで手作業でやっていたことが、システムを導入するとこんなに楽になるんだ」と言っていただけでした。こうした声を聞けると『やってよかったな』と思います。

——お客様とのコミュニケーションの中で何か意識されていることはありますか。

お客様にシステムの説明をする際には、あまり専門的な用語は使わないように意識しています。なかには「この業務を今年初めて担当する」というお客様もいらっしゃるので、簡潔に、簡単な説明をするということを心がけています。

システム開発よりも、お客様と直接対話をする方が色々なことを考えなければならないと思います。会社説明会の際にも、「システムエンジニアはコミュニケーション能力が大事だよ」と聞いてはいたのですが、大学の先生や先輩といった目上の方々と話しているし、大丈夫だろうと考えていました。

しかし、実際入社してみると、様々な年代の自治体職員の方々と話す機会が多く、訛りが強い目上の方とお話する時や専門用語がまだわからない状態でお話を聞いた時には、「話を聞いているだけでこんなにも大変なんだ」と感じましたね。先輩の打ち合わせに初めて付いて行った時は全然話の内容が理解できなくて、「さっきの単語は何だったんだろう…?」、「どう漢字変換するんだろう…?」という状態でした。その時に、『打ち合わせにはこんなにも業務の知識が必要なんだなあ…』と感じました。

(2) 職場編

——YCC に就職を決めたきっかけは何ですか。

私自身、出身が山形市ということもあり、“地元企業に勤めたい”という想いがありました。そして、大学では情報系を勉強していたため、IT系の会社ということで、YCCを受けました。またYCCでは公共・産業・医療・組込みと各種いろいろな業務を行っており、この会社に勤めれば「地元で色々な業種を経験できること」が入社の決め手となりました。



——大学ではどのようなことを専攻していたのでしょうか。



私は情報科学科出身で、小山研究室に所属していました。プログラミング系の研究で、特に、医療系の健康管理システムに関する研究をしました。在学中は「SEになりたい！」という気持ちもあまりなかったのですが、最終的に研究室でシステムを作ってみた時、『せっかくならこの知識を生かせる職業に就きたい』と感じてきて、気がついたら就職活動はIT分野に傾いていました。

——就職活動では他にどのような企業を考えていましたか。

会社説明会の序盤の頃はIT系を中心に見ていたのですが、後半では、業種関係なく幅広く話を聞いていました。そして、様々な業種の話聞いた上で自分の興味関心は、やはりIT系だなと感じ、IT系のみ受けました。

研究室では医療系のシステムを学んでいたのですが、医療システムに特化した会社や県外の会社も見てはいたのですが、医療系ばかりではなく、会社説明会で聞いた“他にもいろいろ経験できる(公共・産業・医療・組込みなど…)”というのが医療系ばかりでなく面白そうだなと感じたため、YCCに入社を希望しました。

——入社して良かったところはありますか。

会社に良い人が多いところですかね。大学時代にプログラミングの勉強をしてきたものの、それが業務にすぐには通用せず、入社した頃は不安を感じていました。そんな時、先輩たちが業務をサポートしてくれたり、気軽に話しかけてくれたりしたため、「人がいいところに入ったな」と感じた経験があります。



——入社して大変だったことはありますか。

業務の知識を身につけるための勉強が大変だと感じています。今の業務の知識は入社してから身に付けたものなので、初めは「高額療養費」という制度自体の勉強から始まりました。常に勉強しているという感じですね。

——入社してくる社員さんには専門外からの方もいるのでしょうか。

そうですね。それこそ文系出身の社員もいますし、今まで1度もプログラミングをしたことがないという社員もいますが、今ではバリバリ仕事をしています。

入社して半年ほどは研修期間があるので、そこでプログラミングの基礎を学び、大体同じくらいのスキルまで到達します。また、専門で学んできたと言っても、実際に業務で使う言語と学校で習ってきた言語が同じというわけではないので、そんなに差は感じられないですね。

研修期間を終えると部署に配置されますが、配属されてからもすぐに業務に携わるわけではなく、OJT といってトレーナーになる先輩が付いてくれて、1年間は徐々に仕事を覚えていく期間になります。またメインのトレーナーは1人なのですが、新人に対しては周りがサポートしてくれる体制があるので、基本的には誰に聞いても質問には答えてくれるといった、“全体でサポートしている”という感じがあります。

——石山さんが新入社員の時は研修中にどんなことをしましたか。

私の時は、ビーコンを使って、社有車の利用状況を管理するシステムを作りました。数年前の新人の方は、お弁当注文システムを作っていて、そのシステムは今でも社内でも活用しています。サポートで先輩が2人くらい付くものの、どういう仕様にするかといった開発やテストまでは全て新人たちがグループでやっていく、という感じですね。

——「先輩が付いて」、「周り全体でサポート」など、社員同士の繋がりが多そうですね。

うちのフロアは元々壁がなく、1フロアが全部吹き抜けになっていて、部署間の物理的な壁がないという特徴があります。そして、フロアに公共・産業・医療・システム開発部が配置されています。壁がないこともあり、部署間の隔たりがなく、気軽に話しかけられる雰囲気がありますね。

例えば、私が所属している公共システム部でわからないことがあれば、他部署へ移動した元公共系の先輩にすぐ聞きに行けるなど、部署間関係なく、先輩や同僚に話を聞きに行けるというのが良いと感じますね。

コロナ以前は社員の家族も参加できる芋煮会や、社の玄関先の広場でビアガーデンを行ったりしていました。こうしたイベント以外にも年に一度社員旅行があり、旅行では山形本社の社員だけでなく東京や仙台の支社の社員さんとも一緒になるので、普段会うことのない支社の方達とお話しできる貴重な機会でしたね。

——女性の働きやすさという点で何か工夫しているなと感じることはありますか。

社員の中には育休・産休を取っている社員が割といるのですが、子供の状況に合わせて育休の延長や時短勤務などができます。こうした制度を活用して、産後もバリバリ働いているお母さんもいらっしゃるので、このような点が女性の働きやすさのために工夫されている点だと感じます。

——コロナ禍直後はずっとリモートワークでしたか。

そうですね。会社でテレワークを導入しようかとなった時、自宅で仕事できる人が限られていましたが、私は初期の方からテレワークが多かったと思います。

入社して気持ちを切り替えて業務開始という感じではなかったのですが、最初は慣れるまでメリハリをつけるのが難しかったです。そのため、携帯のアラーム機能を活用して業務時間を管理したり、テレワークに合わせて自宅の環境を整えたりもしましたね。また、テレワーク中は出社が無いので、以前に比べて全然運動しなくなってしまったなというのもありましたね（笑）。

ただリモートワークによって、外線電話に出なくて済むようになったので、自分の仕事に集中できるという良い面もありました。メリットもデメリットもあったというような感じですかね～。

(3) ある日の過ごし方編

●8:30 【始業】

フロア単位で2～3分朝のストレッチをします。
また、朝会で会社全体の連絡事項を共有します。
その後は部単位で連絡や報告を行い、さらに業務グループでも朝会を行います。

コロナ禍になってからは、Web会議にて朝会を行っています。

●9:30 【業務】

資料作成や打ち合わせを行います。システム関係のサポートのために、お客様の事務所へ訪問することもあります。



●12:00 【お昼休憩】

以前は社員食堂でお昼を食べていましたが、現在はコロナ禍のために自席で食べています。



●13:00 【打ち合わせ】

社内で問い合わせ対応をします。システムの改修作業や、見積もりを取ることもあります。

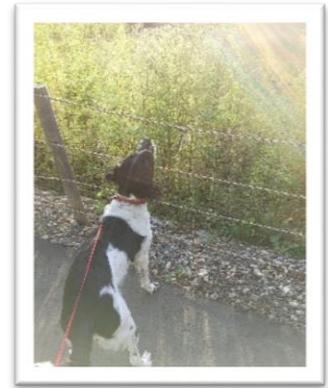
●17:30 【退社】

コロナ禍前は先輩たちと飲みに行ったりジムに行ったりしていました。
現在はすぐに帰宅しています。

(4) むらやまでの暮らし編

——退勤後やお休みの日などは、どんな風に過ごしていますか。

料理を作ることが好きなので、自炊して作り置きをよくします。あとはお酒が好きなので、お酒のおつまみを作ったりします（笑）。また週末は実家に行って、親の家事の手伝いをします。実家に犬がいるので、1～2時間ほど一緒に散歩しています。



——よく作られるおつまみは何ですか。

え〜っとですね…その日ある材料によって変わるものの、一番簡単なのは、ピーマンを切って塩昆布と和えたりとか、厚揚げを焼いたりとかしますね。

——好きな食べ物は何か。

ラーメンや蕎麦が好きですね。私がよく行ってたのは“麺屋かぐら”や“ラーメン次元”というお店ですね。他にも色んなラーメンを食べに行っていました。また、会社の近くに“丹野こんにゃく”という玉こんにゃくを売っているお店があって、そこの玉こんにゃくも好きですね。

——おすすめの地元の場所などはありますか。

西蔵王は景色が良いのでおすすめです。コロナ禍前だとピクニックをしている人もいたりして、春には桜も見れます。ただ、自動車がないと行くのが大変かもしれません。近場であれば、馬見ヶ崎沿いでも綺麗な桜が見れると思います。

——今年の春に馬見ヶ崎沿いのライトアップを見に行ったのですが、とても綺麗でした！

綺麗ですよ。霞城公園も桜の時期にはライトアップするのでおすすめです。

(5) まとめ編

——仕事をしていく中で、今後の目標はありますか。

今のプロジェクトでもリーダー的立ち位置ではあるものの、以前担当していた先輩方に「こういう時どうすればいいですか?」というように、まだ先輩を頼ってしまう時があるので、頼らなくてもできるようにしていきたいです。そして、むしろ後輩から頼ってもらえる存在になっていけたらというのが今の目標ですね。



——リーダーのような、上の立場に立つようになって大変だなあと思うことはありますか。

リーダーになると、プロジェクトの管理を自分たちでしなければならないので、以前のように「言われたことを開発していればよい」というわけではなく、各業務の取りまとめを自分でしなければなりません。また、お客様とお話しする際にも自分がメインになって進めていく必要があります。こういった“管理の難しさ”を感じるようになりました。また、プロジェクトに後輩が入ってきた時に業務を教えるということも難しいと感じますね。当時自分がどうやって勉強していたかを思い出しながら教えています。

——これから就活する学生へ向けて、アドバイスをお願いします。

会社説明会を聞いた時点で、ある程度興味・関心がある業界は定まってくると思うのですが、あまり興味がない業界でもとりあえず話を聞いてみてほしいと思います。そうすることで新しい発見があり、これが良いと感じられる企業が見つかると思うので。また、就活が始まる前から何かアピールできることをしておくということも大事だと思います。

——大学生のうちに経験しておいた方がいいことは何でしょうか。

人によってそれぞれだとは思いますが、私の場合はサークル活動とアルバイトをしていました。とにかく上の年代の方々と話す機会を作るといいのではないかなと思います。大学の中で触れ合う人と話すだけでなく、年代がバラバラの外部の人と話すとき色々気づかされることが多く、それによって話し方も覚えるので、こうした経験は社会人になってからも

役立つと感じています。それこそ、年代がバラバラのお客様とお話するときや、いろんな世代の人がいる会社の中で会話するときにも生きてくるので、“様々な人と会話をする”というのがいいのではないかなと思います。

「サークルや部活動で優秀な成績を残しました」というのも素晴らしいとは思いますが、そういった経験をできるのは一部の人だと思うので、結果ばかり目指すよりもその過程でどんな経験をしたかを大事にしてほしいですね。

——最後に、働きやすい職場づくりに向けて取り組まれていることについて教えてください。

当社には女性の管理職が少ないので、女性向けのセミナーの実施などを進めています。まず流れとしては、「今年はこんなセミナーがあるけどどれを受けたい？」というようにセミナー実施の情報が来るので、その中から自分の興味があるセミナーを選んで受講するという形式です。会社の中でだけというよりも、セミナーを通じて外部の情報も取り入れようとしています。セミナーは昔からあるものの、ここ数年さらに「セミナーを受けてみよう！」という活動が活発になってきたなという印象はあります。

開催されるセミナーの種類が幅広く分かれていて、管理職向けのセミナー以外にも専門職向けのセミナーもあつたりします。最近ではウェブ会議方式のセミナーがメインになっていて、コンスタントにいろんな講習を受けている人がいる印象があります。1年で1人2つくらいは受けていると思います。

——石山さんはこれまでどのようなセミナーに参加しましたか。

一度女性向けのセミナーに参加したことがあります。女性として働きやすい環境や、女性ならではの視点を生かせるようにしよう！などといったセミナーがありました。やっぱり、どうしてもセミナーとなると男性が講師のものが多かったので、女性が講師のセミナーでは「何が言いたいかがよく分かるな」と感じることも多々ありました。もちろん、男性が講師のセミナーでも分かるのですが、どうしてもライフイベントを加味した会社での生活は女性の方に影響が大きいと感じるので、産休や育休を経てもなおキャリアウーマンとしてバリバリ上に進んでいる女性のお話を聞けるとするのは貴重な機会だと感じています。

———ありがとうございます！

「専門外からでも大丈夫！」とはよく聞きますが、そうはいつでも SE は一定の専門知識や技量がなければできないと感じていたので、文系からでも入社する人がいることに驚きました。就職活動を行う中で、「自分にはこれはできなさそう…」という気持ちや「これはついていけなさそう…」といったマイナスの考えが多くありましたが、ほとんどの仕事では入社後に勉強して学んでいくため、石山さんが仰っていたように自分の興味関心以外へ目を向け、様々な職業をもっと勉強していきたいと思いました。

【インタビュアー：山形大学人文社会科学部 藤村 玲菜、高橋 依吹、芳賀 愛衣】

株式会社 YCC 情報システム

【地方だからできないなんて何も無い！ Made in YAMAGATA の IT を世界に！】

・モノづくりの達成感

システムの検討～構築～導入を一連で行うことができ、お客様からの感謝の言葉や仲間との絆、非常に多くのやりがいを得ることができます。

・働く女性を応援

お子さんを出産時の産休や育休はもちろん。子育てをしながら勤務可能な時短勤務も取り入れ、女性にも働きやすい環境を整えています。

・所在地 山形市松波4丁目5-12

・設立 昭和41年11月

・従業員数 154名（男性127名、女性27名）

・URL <https://www.yamagata-ycc.co.jp>

